

目標達成計画

作成日：平成 24 年 4 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	40	○食事を楽しむことのできる支援 入居者の方々と一緒に食事を楽しむ時間が少ない。	食事を一緒に食べることで共有の話題や新しい課題も発見できるような工夫を作る。	一緒に食事を楽しみ、時間を共有することのできる体制を構築する。(職員の役割の共有と分担)	12ヶ月
2	54	○居心地のよく過ごせる居室の配慮 利用者や家族の意向を尊重し、安全で快適に過ごせる環境を整えているが、長年の趣味などの継続を行える環境作りに対する積極的な取り組みが求められる。	一人ひとりの利用者の生活歴や趣味などの情報を家族やその他の社会資源より収集し、共有することで、継続した活動へつなげる。	毎日の活動の時間の中で、個別活動の成果を集団活動の中で発表する機会を設けることで、意欲向上を促し、目標を持ち達成に向けた取り組みをすることで活動を継続したものへとする。	12ヶ月
3	2	○事業所と地域のつきあい 施設の立地的に地域行事が少いため、地域への外出、慰問・ボランティア、、学校との交流会を積極的に行うが、今後も地域のとの関わりについて積極的な取り組みが求められる。	地域との関わりをより深いものとする。医療法人が開設している機能を十分に活用し、機会の確保に努める。	地域の方も参加できる催し、地域に向けての働きかけの在り方を法人として検討する。事業所としては、地域への外出の機会を確保し、地域の方々との交流に努める。	12ヶ月
4	13	○職員を育てる取り組み 法人内外部への研修の機会を確保し、職員の育成に努めているが、医療法人が母体である特色を活かし、認知症に対する介護を医学的知識に基づいたとなるように技術・知識の更なる向上が求められる。	研修に参加できる体制を確保し、認知症に対する理解、医学的知識を習得することで、よりよい認知症介護を実践する。	法人、事業内外研修を受講する機会を確保し、特に事業所の研修については認知症の理解に資する内容を計画的に開催する。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。